

県内の患者数

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	↗ 19	17	百日咳	→ 0	0
RSウイルス感染症	↗ 3	1	ヘルパンギーナ	↗ 310	287
咽頭結膜熱	↘ 13	30	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	↘ 2	4
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↗ 57	55	急性出血性結膜炎	→ 0	0
感染性胃腸炎	↗ 289	288	流行性角結膜炎(はやり目)	↗ 10	7
水痘	→ 57	57	細菌性髄膜炎	→ 0	0
手足口病	↗ 615	592	無菌性髄膜炎	↘ 0	1
伝染性紅斑(りんご病)	↘ 0	1	マイコプラズマ肺炎	↘ 1	2
突発性発しん	↗ 44	43	クラミジア肺炎	→ 0	0

報告が多い感染症

- 手足口病** 報告数:615件(前週:592件)
地区別:人吉、水俣、菊池
年齢別:1歳 248件(40.3%)
- ヘルパンギーナ** 報告数:310件(前週:287件)
地区別:菊池、宇城、八代
年齢別:1歳 89件(28.7%)
- 感染性胃腸炎** 報告数:289件(前週:288件)
地区別:菊池、山鹿、有明
年齢別:1歳 40件(13.8%)
10~14歳 40件(13.8%)

◆◆◆保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

保健所名	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎
熊本市保健所	4	1	4	18	78	14	224		19		62			10				
山鹿保健所			1		24	6	9		1		11		*	*				
菊池保健所	1		2	17	69	5	90		3		72	2						
阿蘇保健所				3									*	*				
御船保健所	1				3	4	1				4		*	*				
八代保健所	4			1	25	1	14		4		46							
水俣保健所				1	10	2	39		3		13		*	*				
人吉保健所	8				13	11	79		3		8		*	*				
有明保健所		2	4	2	39	6	48		1		16						1	
宇城保健所	1			9	17	8	43		3		49		*	*				
天草保健所			2	6	11		68		7		29							
計	19	3	13	57	289	57	615	0	44	0	310	2	0	10	0	0	1	0

◆◆◆年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

インフルエンザ定点	合計	0~5 ヵ月	6~11 ヵ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80歳以上	
インフルエンザ	19				1			1	2	1		1	1	5	2	1	3	1				
小児科定点年齢	合計	0~5 ヵ月	6~11 ヵ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20歳以上							
RSウイルス感染症	3			3																		
咽頭結膜熱	13		1	4	1	2		3	1	1												
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	57			2	4	8	7	5	8	9	5	5	1	3								
感染性胃腸炎	289	4	25	40	36	34	23	17	14	11	15	11	40	5	14							
水痘	57	1	3	8	14	13	3	5	2	2	2	2	2	1	1							
手足口病	615	2	97	248	116	70	35	23	9	3	4	2	3	3								
伝染性紅斑	0																					
突発性発しん	44	1	27	15	1																	
百日咳	0																					
ヘルパンギーナ	310	6	35	89	66	30	28	30	9	9	4	1	3									
流行性耳下腺炎	2			1				1														
眼科定点年齢区分	合計	0~5 ヵ月	6~11 ヵ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70歳以上		
急性出血性結膜炎	0																					
流行性角結膜炎	10				1								1		5			1	1		1	
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1~4	5~9	10~14	15~19	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70歳以上					
細菌性髄膜炎	0																					
無菌性髄膜炎	0																					
マイコプラズマ肺炎	1		1																			
クラミジア肺炎	0																					

大きな流行が発生
又は継続しつつある地域

- ヘルパンギーナ: 菊池、八代、水俣、宇城、天草
- 手足口病: 熊本市、山鹿、菊池、水俣、人吉、有明、宇城、天草

ヘルパンギーナの患者報告数が警報レベルを超えました

【ヘルパンギーナの患者報告数が警報レベルを超えました】

ヘルパンギーナの県全体の一定点あたりの患者報告数が、国が定める警報基準を超えました。地域別では、菊池、八代、水俣、宇城、天草が警報レベルを超えています。また、手足口病も第24週(6/3~6/9)に警報レベルを超えましたが、それ以降、引き続き増加しており注意が必要です。

【ヘルパンギーナとは】

潜伏期間: 2~4日

特徴: 発熱のとどにできる水疱性発疹が特徴で、急な発熱で発症します。夏場に流行する小児の急性ウイルス感染症であり、いわゆる夏かぜの代表的な疾患です。腸管で増えるウイルスが回復後も2~4週間の長期にわたり便からウイルスが排泄されます。また、鼻水や唾液中にもウイルスがみられます。

【手足口病とは】

潜伏期間: 3~5日

特徴: 発熱、手のひら、足の裏、おしり、口の中の粘膜の発疹。38度の熱が1~3日あります。発疹は水疱性の発疹(一見水疱瘡に似ている)で、周りが赤くなり、痛みを伴います。2~3日でかさぶたになり1週間程度で消えます。1~5歳までが多く、成人でも感染します。4歳までの乳幼児が80~90%を占めるウイルス性発疹です。

【ヘルパンギーナと手足口病の感染経路】

- 飛まつ感染: 咳やくしゃみ、つばなどのしぶきに含まれるウイルスによって感染します。
- 経口・接触感染: 水痘のなみやり便に排泄されたウイルスが口や眼などの粘膜に入って感染します。

【ヘルパンギーナと手足口病の予防策】

- 手洗いは流水とせっけんで十分に行いましょう。
- タオルの共用はしないようにしましょう。
- 排泄物(便など)は適切に処理をしましょう。



KKT 医療ナビ! Dr. テレビたん

<http://www.dr-tvtan.jp/>

情報提供: 熊本県健康福祉部 健康危機管理課